

萬歳小だより

発行：新見市立萬歳小学校

「特別の教科 道徳」で学ぶこと

子どもたちは、毎日、教室で国語や算数などの教科と言われる勉強をしています。でも、それだけではありません。道徳科の勉強もしています。

国語なら、漢字を覚えれば、その漢字を使って文章が書けるようになります。算数なら、九九を覚えれば、それを使って文章問題が解けるようになります。国語や算数の勉強は、覚えたことがそのまま自分の力となり、すぐに役立つようになります。



【3, 4年生の授業】

でも、道徳科の勉強は、そのようにはいきません。たとえば、「いじめはいけない」ということを道徳科の授業で勉強しても、学級でいじめが起こったら、「やめろよ！」と言えません。なぜなら、注意したら、今度は、自分がいじめられるからです。だから、多くの人を見て見ぬふりをします。目の前でいじめを見ても、勇気を出して注意することができないのです。

しかし、いじめをそのままにしていたらどうでしょう。その子は、ずっといじめられてしまいます。だから、「やめろよ！」と言えなくても、自分ができる範囲で、何かをすることが大切です。それなら、できるはずで

す。このように、道徳科の授業で勉強したことは、国語や算数と違って、覚えたことがすぐには力になりません。でも、自分のできる範囲でできることは何かを考えることはできます。そして、考えたことを少しでも多く実践できるようにするのが道徳科の授業なのです。



【1, 2年生の授業】

そのために、道徳科の授業は、「教科」と呼びません。「特別の教科」と呼びます。「特別の教科」なので、先生たちも、入念に準備をします。一週間かけて準備したことを、毎週の道徳科の授業で行うようにするのです。